

第10期柳瀬川・空堀川流域連絡会 活動報告書

柳瀬川・空堀川流域連絡会の概要

○設置目的

住民と行政が共通認識に基づき、協働・連携して川づくりを進めていくため、流域の住民、柳瀬川や空堀川に関心を持ち活動している団体、市及び都が河川に係わる情報や意見交換を行うことを目的に流域連絡会を設置しています。

○経緯及びこれまでの活動実績

本流域連絡会は平成11年11月に発足し、これまでに第1期から第9期までの活動が終了しています。コロナ禍による一時休止を経て、第10期は令和5年9月にスタートしました。

【活動実績】

第1期	平成11年11月	～	平成13年10月
第2期	平成14年4月	～	平成15年11月
第3期	平成16年7月	～	平成18年6月
第4期	平成18年12月	～	平成21年1月
第5期	平成21年5月	～	平成23年2月
第6期	平成23年5月	～	平成25年3月
第7期	平成25年7月	～	平成27年9月
第8期	平成28年3月	～	平成30年8月
第9期	平成30年11月	～	令和2年12月
第10期	令和5年9月	～	令和7年9月

○第10期の委員構成

- ・都民委員（公募） 10名
 - ・団体委員（公募） 5名
 - ・行政委員 12名
- 合計 27名

令和7年9月

柳瀬川・空堀川流域連絡会

令和5年度の活動内容【第10期】

■第1回 全体会

○日時等

日 時：令和5年9月27日（木）

参加者：都民委員5名、団体委員5名、行政委員3名 計13名

○概 要

事務局及び北多摩北部建設事務所工事第二課長の挨拶に始まり、各委員の自己紹介の後、事務局提案の流域連絡会の設置要綱・運営要領の確認と質疑応答を行い、委員推薦により座長・副座長を選出しました。

座長が議事を進行し、第9期の活動まとめとして「第9期柳瀬川・空堀川流域連絡会活動報告」と「第8～9期地域別分科会・意見交換まとめ」について、事務局から概要説明がありました。続いて今後の進め方について意見交換を行い、まずは地域別分科会形式で進めて全体で意見交換する機会も設けるという座長案で決定しました。さらに事務局から、今後の予定について、11月下旬～12月中旬に第1回現地視察会と2月下旬～3月上旬での第3回流域連絡会開催の提案がありました。

北多摩北部建設事務所からは、令和5年度の管内の工事箇所について工事概要の説明があり、委員から、アユが産卵できる環境に配慮してほしい、資料はA3サイズの紙で配布してほしいなどの要望・意見がありました。

委員からの報告事項などでは、11月18日の「空堀川秋の清掃活動」についての報告と、柳瀬川の清瀬橋付近でのバーベキュー客の後片付けのトラブルについての報告及び啓蒙チラシ配布の要望がありました。

最後に事務局が、連絡方法について各公募委員に確認を依頼しました。



第1回全体会の様子

■第2回 現地視察会

○日時等

日 時：令和5年11月22日（水）

参加者：都民委員4名、団体委員3名、行政委員6名（代理1名）、傍聴人1名 計14名

○概 要

柳瀬川・空堀川の下流から上流まで、各市の主要箇所や工事予定箇所などについて現地視察を行いました。柳瀬川の河床整備箇所から金山調節池、清瀬橋の親水公園、水涸れ箇所として秋津南橋、JR武蔵野線の地下水を利用した御成橋のフンド、新庚申橋の粘土張り箇所、整備中の中砂の川橋上流、武蔵村山河道内調節池を順に視察し、各所で設計担当者や事務局の説明を受け、参加委員が質問や感想、意見を述べました。



清瀬橋親水公園

【行程：12：30～16：30】

清瀬駅（集合）→①中里6丁目→②金山調節池→③清瀬橋→④秋津南橋→⑤御成橋→⑥空堀川・奈良橋川合流点→⑦新庚申橋→⑧中砂の川橋→⑨武蔵村山河道内調節池→⑩玉川上水駅～立川駅（解散）

【視察会での主な感想・意見等】

・柳瀬川整備工事：アユなどが遡上するので水路は確保してほしい／植生豊かな水際線ができて現在の

水環境が維持されていくような検討もしてもらいたい

- ・空堀川・奈良橋川合流点：粘土張りは実際にやったところの効果を見て生かしていく必要がある
- ・中砂の川橋：1：3の緩傾斜護岸では勾配はきつすぎるのではないか／ワンドは外岸側のカーブの終点付近にできるので直線部に作るのは無理がある／水がないのでどこまで期待できるかわからない
- ・上流の水源地も見ておいた方がいいと思うので、チャンスがあったらぜひお願いしたい

■第3回 全体会・分科会

○日時等

日 時：令和6年3月13日（水）

資料送付者：都民委員6名、団体委員4名、行政委員1名、臨時委員1名 計12名

○概 要

事務局及び座長の挨拶の後、座長から臨時委員の推薦があり、委員の賛成により臨時委員1名の就任が決定しました。

続いて事務局が、第10期第1回流域連絡会の開催報告及び第2回流域連絡会第1回現地視察会の実施報告を行いました。また、今後の分科会・全体会の進め方について提案し、概要説明を行いました。その後、下流：清瀬市、中流：東村山市、上流：東大和市・武蔵村山市の三つの地域別グループの分科会に分かれて、第4回以降、流域連絡会全体で議論していきたい課題を選出するための意見交換を行いました。

その後の全体会で、分科会での意見交換で選出された課題について、各分科会で指名された発言者が発表を行い、清瀬市グループは「現在の河川状況を知って評価する」、東村山市グループは「水量の確保」、東大和市・武蔵村山市グループは「親水性」をテーマに議論していきたいとの説明がありました。

委員からの報告事項などとして、4月20日の「第49回クリーンアップ空堀川春の清掃活動」と5月18日の「第6回ひがしやまと空堀川・川まつり」の報告、さらに「清水富士見緑地の樹木管理と河原の樹木管理に関して」の概要説明と、河川管理へのハイテク技術活用の提案がありました。

最後に北多摩北部建設事務所維持担当から、来年度の空堀川河道内での草刈りの予定について報告がありました。



第3回全体会・分科会の様子

令和6年度の活動内容【第10期】

■第4回 全体会・分科会

○日時等

日 時：令和6年6月28日（金）

参加者：都民委員6名、団体委員4名、行政委員6名 計16名

○概 要

事務局及び座長の挨拶の後、事務局が人事異動による変更部分の紹介、臨時委員の承認、続けて第3回流域連絡会の開催報告を行いました。また、今後の分科会・全体会の進め方について提案し、概要説明を行いました。

その後、下流：清瀬市、中流：東村山市、上流：東大和市・武蔵村山市の三つの地域別グループの分科会に分かれて、第3回の分科会で選出された課題より、「現在の河川状況を知って評価する」を今回の議論のテーマとし、評価すべき事項と、それに伴った次回のフィールドワークでチェックすべき場所についての意見交換を行いました。

その後の全体会で、分科会での意見交換の内容について、各分科会で指名された発言者が発表を行い、清瀬市グループは「評価事項：落差工と流況、動植物について／フィールドワーク：金山橋上流」、東村山市グループは「評価事項：河道内樹木、武蔵野線の湧水ポンプアップ、水量確保／フィールドワーク：清水富士見緑地、わくわく広場、御成橋付近」、東大和市・武蔵村山市グループは「評価事項：親水性／フィールドワーク：芝中調節池、源流域付近」との発表及び説明がありました。

その後報告事項として、北多摩北部建設事務所設計担当から「令和6年度の工場発注箇所について」の報告と、委員からは「空堀川流域の水の流れ・水量確保方法の検討について」の概要説明、「清水富士見緑地の樹木管理について」の概要説明と報告、7月20日開催の「空堀川 夏の清掃」の概要説明と案内、建設局河川部からは「気候変動を踏まえた河川施設のあり方」の概要説明がありました。



第4回全体会・分科会の様子

■第5回 現地視察会

○日時等

日 時：令和6年10月16日（水）

参加者：都民委員5名、団体委員4名、行政委員1名 計10名

○概 要

柳瀬川・空堀川の下流から上流まで、各市の主要箇所について現地視察を行いました。柳瀬川上流の河畔林や寄り洲による環境、動植物の生息状況について、空堀川下流の落差工前後の流況、市民による河道内樹木の管理箇所、護岸の改修工事完了箇所、空堀川源流域の環境を順に視察し、各所で建設担当者や委員、事務局の説明を受け、参加委員が質問や感想、意見を述べました。また、今回は現況評価シートのためたたき台を用意し、その課題点等を次回の流域連絡会にて議論するため、視察会で実際に使用を試みました。

【行程：12：15～16：00】

東所沢駅（集合）→①金山橋上流→②三郷橋～柳原橋→③第二砂川橋～馬頭橋→④中砂の川橋～五中橋→⑤源流部→⑥野山北公園（解散）

【視察会での主な感想・意見等】

- ・金山橋上流：ワンドの復元など、魚が住みやすい環境作りを進める必要がある
- ・三郷橋～柳原橋：魚が遡上できそうな魚道である／バープ間の距離を狭くした方が良いのではないかと／巨石の間にすき間があり、間詰によっては強度が左右されるため調整が必要なのではないかと／バープ工の下流部に巨石を潜らせた方が良いのではないかと
- ・中砂の川橋～五中橋：水が無ければ親水公園とは言えないと思う／街灯が無く、夜間は非常に暗いため安全性が気になる
- ・現地視察会の際にはイヤホンガイドがあると良いのではないかと



金山橋上流部の視察

■第6回 全体会・分科会

○日時等

日 時：令和6年10月29日（火）

参加者：都民委員4名、団体委員4名、行政委員3名、傍聴人1名 計12名

○概 要

事務局及び座長の挨拶の後、事務局が第5回流域連絡会第2回現地視察会の実施報告を行いました。続けて、第10期柳瀬川・空堀川流域連絡会の今後の進め方について概要説明及び提案を行いました。その後、下流：清瀬市、中流：東村山市、上流：東大和市・武蔵村山市の三つの地域別グループの分科会に分かれて、第5回流域連絡会第2回現地視察会にて使用した現況評価シートのたたき台の評価項目や評価方法への課題点について意見交換を行いました。

全体会では、分科会での意見交換の内容について、各分科会で指名された発言者が発表を行い、清瀬市グループは「野草や工事に対する評価項目の追加」、東村山市グループは「利用者視点でわかりやすい評価項目の作成」、東大和市・武蔵村山市グループは「親水施設やその利用者についての評価項目の追加」といった追加項目や課題があるとの説明がありました。

また、委員より実施目的等といった現況評価シート自体の見直しと、制作をするのであれば、長期的な分科会が必要なのではないかと、との意見がありました。そのため、今回の流域連絡会の中で現況評価シートを作りこんでいくのは難しいのではないかと結論に至り、座長より取りやめが提案され、了承されました。

報告事項として、事務局より次回の視察会についての概要説明が行われた後、委員からは10月14日の「空堀川ミニ清掃」の報告が行われました。



第6回全体会・分科会の様子

■第7回 現地視察会

○日時等

日 時：令和6年12月3日（火）

参加者：都民委員5名、団体委員4名、行政委員1名 計10名

○概 要

空堀川の上流から下流まで、各市の主要箇所について現地視察を行いました。森永乳業の処理水の流出が見られる2か所のエリアと、粘土張り工の施工箇所、通年水流がある箇所、瀬切れ箇所、流水が再び現れる箇所を順に視察し、各所で事務局や委員の説明を受け、参加委員が質問や感想、意見を述べました。

【行程：13：00～15：30】

玉川上水駅（集合）→①東芝中橋→②宮前一の橋→③高木橋→④清水富士見緑地→⑤天王橋下流→⑥前原橋→⑦新秋津駅～久米川駅（解散）

【視察会での主な感想・意見等】

- ・高木橋：東芝中橋からの流水がこの地点では少なくなっている／粘土張り工によって地下からの湧水を塞いでしまう事もあるのではないかと／水量確保のため、粘土張り整備後の河床等の位置関係や地下水の状況を把握するための方法を模索する必要があるのではないかと
- ・天王橋下流：落差工の一番下には水が溜まっている事が多いが、晴れの日が続くと干上がってしまう／恐らく落差工の下付近で水が地下へ浸透している箇所があるのではないかと



瀬切れ個所の状況視察

■第8回 全体会・分科会

○日時等

日 時：令和7年2月27日（木）

参加者：都民委員5名、団体委員5名、行政委員2名 計12名

○概 要

事務局及び座長の挨拶の後、事務局が第7回流域連絡会第3回現地視察会の実施報告を行いました。続けて、第10期柳瀬川・空堀川流域連絡会の今後の進め方について説明を行いました。

その後、下流：清瀬市、中流：東村山市、上流：東大和市・武蔵村山市の三つの地域別グループの分科会に分かれて、空堀川の流水が少ない理由と流水確保のための対策について意見交換を行いました。

全体会では、分科会での意見交換の内容について、各分科会で指名された発言者が発表を行い、空堀川に流水が少ない理由と流量確保の対策として、清瀬市グループからは「理由：流域下水により本来地域で活用される水が活かされていないこと」「対策：下水システムの見直しや旧川の活用」、東村山市グループからは「理由：水源林の手入れ不足や宅地化による土地の保水力の低下」「対策：浸透枿や地下水水位データの活用」、東大和市・武蔵村山市グループからは「理由：地形的背景や宅地化等による土地の保水力の低下」「対策：インフラシステムの再構築」が挙げられました。

報告事項として、事務局より次回以降の流域連絡会について説明が行われた後、委員からは4月19日の「空堀川 春の清掃運動」および「春の空堀川クリーンアップ作戦」についての報告が行われました。



第8回全体会・分科会の様子

令和7年度の活動内容【第10期】

■第9回 現地視察会

○日時等

日 時：令和7年6月18日（水）

参加者：都民委員3名、団体委員2名、行政委員3名 計8名

○概 要

今回は、分科会で上流域からだされた親水性というテーマで現地の視察を考えて視察の場所などを決めた。親水という言葉を広く捉えて、水に親しむ、川の近くに住んでいてどうだ、施設としてこんなもの欲しい、こういう使い方ができたら良いなど、親水という言葉に川に関する広い意味で現場を視察していただきたい。

【行程：13：30～15：45】

玉川上水駅（集合）→①空川ひろば→②新庚申橋上流→③村山大島紬糸洗場跡→④番田池→⑤上北台駅～玉川上水駅（解散）

【視察会での主な感想・意見等】

- ・空川ひろば：植樹イベントは当時の流域連絡会で決めた／2022年10月「空川ひろば」という名前が決まった／日常的な使い勝手というものをもうちょっと考えたほうが良い
- ・新庚申橋上流：旧川は起伏が激しい地形を大きく蛇行して流れていたところを、新川では直線的に整備した／旧河道は「からぼり緑道公園」という名前で公園として東大和市が管理している
- ・村山大島紬糸洗場跡：水量は今の状態よりは豊かだった。源流を豊かにすることが、空堀川全体を豊かにするために一番大事なところだ／源流域を豊かにしていく意味では親水性ということで、多くの市民に関心持ってもらわないと難しい
- ・番田池：親水性という言葉により、川を認識していない人々に対して、川に対する意識を醸成し、川を大事にしてもらえることにつながる



平成20年に植樹した空川ひろばのエノキ

■第10回 全体会・分科会

○日時等

日 時：令和7年7月17日（木）

参加者：都民委員6名、団体委員3名、行政委員5名 計14名

○概 要

座長の挨拶の後、事務局が今年度の工事について、説明を行いました。続いて、第9回（第4回現地視察会）の実施報告を行い、その後、下流（清瀬市）、中流（東村山市）、上流（東大和市・武蔵村山市）の三つの地域別グループで分かれて、空堀川の「親水性」をテーマに分科会を行い、出された意見を発表しました。

下流グループでは、「下流は上流と違って水量が多いことから、降雨のあとは深い淵ができやすく、川に入るのが危険な時もある」「河原にも高木が必要で、タカ類の休息の場となる」「空堀川・柳瀬川にふさわしい「柳瀬川回廊」にしてほしい」等の意見がありました。



第10回全体会・分科会の様子

中流グループでは、「水量確保の議論が必要」「子どもたちが安心安全に遊ぶ条件は。全体に見通し良いことが前提」等の意見がありました。

また上流グループでは、「市民に理想の河川デザインを立案してもらう」「親水性の前提は、水が流れている川」「親水施設を広く捉える必要がある」「PRについてネット・紙媒体双方での積極的にアピール」等との意見がありました。

報告事項として、事務局より次期に向けて、どのようなことをやっていきたいか、10期を踏まえて、考えていけるかと報告があった。

■第11回 全体会

○日時等

日 時：令和7年9月4日（木）

参加者：都民委員6名、団体委員3名、行政委員2名 計11名

○概 要

議事は、北多摩北部建設事務所工事第二課長の挨拶に続き、(1)第10回の議事について、(2)第10回流域連絡会の活動報告書（案）について、(3)「10期連絡会及び第11期連絡会に向けて」都民、団体委員からの自由意見、(4)事務連絡などについて報告や意見交換が行われました。

都民、団体委員からの自由意見は、水量について「空堀川上流域の水不足に対し、既存の水資源（森永の水など）を活用し、循環型の水利用も考える必要」「空堀川源流域の水を下流へつなげていくための工夫が必要」等の意見がありました。

環境については「下流域での河川整備に対し、親水性や自然環境への配慮が不十分」「水と木と土が共存する自然の回復が必要」「環境部門との連携による持続可能な川づくりを強く望む」等の意見がありました。

来期の流域連絡会等については「水量確保の議論よりも木と草の保全に議論の重点を置きたい」「空堀川の将来像として第7期でまとめた「環境・景観」、「防災・安全」、「利活用」、「維持管理」の4つのテーマで議論を進め、具体的な対策の提示」「流域連絡会のあり方について、地域ごとではなく東京全体を眺めた流域連絡会のあり方を検討すべき」「流域連絡会の委員として地域と行政をつなぐ役割を果たし、自然との共生を目指す活動の継続」「樹木の伐採を抑え、自然と人が共生できる川づくりを目指すべき」等の意見がありました。



第11回全体会の様子

第10期流域連絡会における意見交換のまとめ

第10期流域連絡会では、上流・中流・下流の3つの地域別分科会における議論をベースとした意見交換を行いました。第3回連絡会にて各分科会から重点的に議論したいテーマを1つずつ提案していただき、それら3つのテーマを全体の議題として順番に取り上げ、それぞれ「現地視察会」→「会議での意見交換」という形でテーマに関する議論を深めました。各テーマに関する主な意見等は以下のとおりです。

■河川の現況の把握と評価（下流：清瀬市グループより提案）

○評価項目の例

- ・流水に関する項目（流量、水深、水質等）
- ・河道の状況に関する項目（河床材料、洗堀や堆積の状況、落差工周辺の流況等）
- ・動植物に関する項目（植物・鳥・昆虫・魚等の種類や数、外来種の状況、河道内樹木等）
- ・親水性に関する項目（施設の有無や形状、利用者の数等）
- ・工事の実施状況に関する項目

○どのような目的で、誰が使うのかによって、評価シートの作り方は変わってくる。一般の利用者に評価してもらうのであれば、利用者目線で分かりやすい項目や評価方法を考えるべき。

○効果的な評価シートを作成するのは簡単ではない。本格的に取り組むのであれば、それに特化した分科会を立ち上げて時間をかけて作り込んでいくのが良いのではないかな。

■水量の確保（中流：東村山市グループより提案）

○空堀川に流水が少ない理由

- ・地形的な条件（源流域が乏しい）
- ・水源林の手入れが不十分であること
- ・宅地化による土地の保水力の低下
- ・流域下水システムにより、本来地域で活かされるべき水が活かされないため
- ・地下水位の低下による河床への流水の浸透

○流水確保のための対策

- ・雨水浸透柵や、保水・透水性を持つ舗装材などの活用
- ・旧川を地下水の集水に活用する
- ・河道の中に遊水機能を持たせる
- ・広域上下水道のシステムの見直し・再構築
- ・地下水位データの活用による、実施した対策の効果の検証

■親水性（上流：東大和市・武蔵村山市グループより提案）

○遊歩道や木陰やベンチといった、人が集えるような仕組みや、メンテナンスや熱中症対策等の機能面も考えた整備が必要。

○親水という言葉を広くとらえれば、橋やそこから眺める景色も親水に通ずる。

○河川のデザインに市民が参画することで河川への関心を持ってもらう。

○情報発信・PRの重要性。整備するだけでなく、その場所の情報や魅力を様々な媒体を使って周知・発信したり、イベントを積極的に活用するべき。

○親水の大前提としても、水量の確保が重要。

○安心安全があつての親水なので、まずは洪水対策としての河川整備や防災情報の周知が重要。



第 10 期 柳瀬川・空堀川流域連絡会 活動報告書

柳瀬川・空堀川流域連絡会

【問い合わせ】東京都北多摩北部建設事務所 工事第二課（流域連絡会事務局）

〒 190-0023 東京都立川市柴崎町 2-15-19

Tel : 042-540-9521 / Mail : S0200241@section.metro.tokyo.jp